



# 共創

NO 6

令和3年8月30日発行

8月26日、夏休みが明け、学校に、子どもたちの元気な声が戻ってきました。

朝、学校へ登校してきた子どもたちの笑顔に、友達と会えることの喜びや、これからの学校生活への期待を感じ、子どもたちの可能性を全力で支えていこうと強く思いました。

夏休みには、東京オリンピックが行われました。その開催には様々な意見もありましたが、連日繰り広げられた選手たちのパフォーマンスに、たくさんの感動をもらいました。12歳の開心那さんや、13歳の西谷 花さんをはじめ10代、20代前半の若い選手の活躍が目立ちました。あの舞台上で堂々とベストパフォーマンスを発揮できる精神力に驚くとともに、笑顔から、そのスポーツが大好きなんだという思いが伝わってきました。



六合小出身の大池 水杜さんの笑顔も素敵でした。そんな選手たちの笑顔に、子どもたちが刺激を受け、自分が夢中になれるものを見つけて、思い切り挑戦してほしいと思いました。

静岡県では2度目の緊急事態宣言が発出され、新型コロナウイルス感染への対応も厳しい中での学校生活となりますが、安心、安全を第一に考え、子どもたちの学びを支援していきます。登校や学校生活に関する件、日課の変更等へのご理解、ご協力をお願いいたします。

## あたたかな言葉は、まず「聴く」から…

26日に、全校集会を行い、子どもたちに「聴く」ことについて、次のような話をしました。

今日は、「聴」という漢字について話します。難しい漢字ですが、「きく」という漢字です。

「きく」には「聞く」と「聴く」の2種類の漢字があります。「聞く」は、自然に聞こえてくる音や声を聞くこと。「聴く」は、自分から人の話や音を聴こうとする時に使う言葉です。

「聴く」の漢字は、4つの「聴き方」があるということを表していますが、わかりますか？

- 1 「耳」で聴く。(耳を澄ませて、最後まで相手の話を聴くこと。)
- 2 「目」で聴く。(相手をよく見て、うんうんと頷きながら聴くこと。)
- 3 「心」で聴く。(相手が伝えようとしていることをわかろうとして聴くこと。)

さて、4つめは、どんな聴き方でしょうか。

- 4 「素直」に聴く。(相手の思いや考えを大切にしようと受け止めながら聴くこと。)

「聴」という字は、「徳」という字によく似ています。2つの漢字にあるのは、「恵」(昔の字)という字です。この「恵」は、「まっすぐ、誠実」そして「素直」という意味があります。

**耳で聞く、目で聴く、心で聴く、そして、素直に聴く。**

言うのは、とっても簡単ですが、4つの聴き方で聴くのはとっても難しいことです。でも、今年の合言葉にある「あたたかな言葉で伝え合う」ためには、この「聴く」ができなければなりません。

人の話に耳を傾ける、そして人の思いや考えをわかろうとする人には、あたたかな心が育ちます。あたたかな心から、あたたかな言葉が出てくるのです。あたたかな言葉を伝え合うためには、まず、聴くことから。ぜひ、「聴く」ことができるあたたかな人になってください。

子どもたちが「聴くことができる人」になるためには、まずは、周りにいる大人から…。私たち職員も、子どもたち一人一人の話を聴くことに心がけたいと思います。(校長 小林 正宣)